



復刊第59号

第十九回日本女医会総会を顧みて

会長 三 神 美 和

五月としては暑すぎる「さつき晴れ」の日、北陸の中心地、金沢市で開催された今年の総会は文字通り盛会そのものでありました。広い観光会館の大ホールも狭さを感じる程、会員により埋めつくされ、それに加えて、熱気あふれる会場の空気は、さすがに日本女医の實力を示すものでありました。この様に本総会を盛り上げて下さいました石川県支部の皆さまには何とお礼を申上げてよいか分りません。全国から出席された会員の皆様も、この至れりつくせりのご配慮にさぞ満足され、心から感謝されておられることと思えます。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

四十八年度の決算、年度の予算事業計画など、会員のご協力によって承認されましたことは、よろこばしいことでした。日本女医会の発展と、物価高とにより予算も年々膨脹してまいりますが、会費以外にルーペンダントの特

許料や年金の手数料などによって、どうやら運営されている現状です。年金手数料も加入者が増えない限り次第に「しりすばみ」となって参ります。本年は安田信託のこまかい計算にもとずき、以前より非常に有利になる様に改正されましたので、会員の皆さまのために、また日本女医会の健全な発展のために多数の方々にご加入して頂きたいと存じます。

います。十分意見を出しあつて、最後に投票によって決定されたのでありますが、これによって総会前のもやもやしたものが解消し、さっぱりとした気分になりましたことは、本当によかつたと思えます。良識ある会員の皆様を信じ、総会の決定にもとずき、今後一層国際女医会会議の準備に邁進したいと存じます。コンベンションサービスとの契約、資金づくりなど具体的準備にとりかかりたいと存じますので何卒一層のご協力、ご援助をお願い申し上げます。

今秋ブラジルで開催される第十四回国際女医会会議へ提出の演題については小暮、添田、山崎三先生のご講演は日本代表としてまことにふさわしい立派なものでした。公害日本の名を高からしめるかも知れませんが、会員一同に深い感銘を与えたことと思えます。いつも数多い参加者、それに加えてすぐれた演題を提出する日本女医会は、国際女医会において次第に重要な「メンバー」として認められて参りました。日本女医会としても次回の東京会議に際し、一層その認識を深くして頂くように努力したいと思えます。今回のブラジル会議への出席の意義は、その準備とも考えられますので、ご参加される方は、よく会議の運び方や接待の仕方などを目で見、耳できいてきて頂きたいと思えます。

最後に、総会の席上一寸ふれました海洋博医療について申し上げたいと存じます。これについての詳細は別項にのせてありますが、五月初め、正式に

海洋博会長の名において、日本女医会に医療援助の要請がありました。沖縄には医療要員が少なく、到底海洋博医療には手がまわらないので、内地から援助をお願いしなければならぬそうです。それで日本医師会へもお願いしたが、万博医療に特に実績のあつた日本女医会にお願いに來られたということとです。どうか万博と同様にご援助をお願いしたいと申されました。会場内に三ヶ所の救急診療所を設け、二ヶ所に中央診療所をおく予定とのことでした。博覧会入場者はおよそ五百万人と予想されるということです。万博より多少規模が小さいといえそうです。

日本女医会の実績が認められ、援助を要請された以上、全面的に援助申し上げたいと思えますが、遠隔地であること、暑い土地柄であることから、日本女医会それ自身として、万博の時に総ぐるみで引受けることは出来な

物に行かれる方もあると存じますので、医療を手伝いながら、ついでに見物して下さることも悪くはないと思えます。折角見込まれたからには一肌ぬいで助けてやろうと思召される方は、どうぞどしどしお申し込み下さい。開場は来年の七月に迫っておりますので、今からでも決して早すぎることはないと思えます。こうした地味な社会奉仕をするのも私共医療に携わるものの特命かと思えます。国内においても、国際的にも日本女医の力を示すべく大にかきつばた咲く美しい兼六公園を思

い浮べつつ総会の回想を終ります。

◇海洋博医療について

一、開催期間—昭和五十年七月二十日(日)同五十一年一月十八日(日)

一、開催場所—沖縄県本部半島
一、会場開閉時間—午前九時～午後十時

一、観客動員—約五百万人
一、会場内従業員数—四千人～六千人
一、会場規模—百万平方メートル
陸域七五万平方メートル
海域二五万平方メートル

一、会場までの道程
東京(羽田空港)～沖縄(那覇空港)
二時間三十分
那覇空港—会場まで
二時間三十分(車)

一、医療施設—診療所二ヶ所
救護所四ヶ所
一、医療従事者—七十五名(医師二十一名、看護婦三十名、その他二十四名)

一、診療時間—診療所午前八時～午後十時(二交替宿直あり)

一、報酬月額—三十万円
航空賃は一部支給

一、医師等の宿泊施設
会場周辺及び名護市内に協会が用意する予定(名護市内より会場まで車で三十分)

◇

◇

第十九回日本女医学会定時総会

石川県支部 米 林 梅 子

日時 昭和四十九年五月十八日(土)

午後一時—四時十五分

場所 金沢市下本多町

金沢市観光会館二階大集会室

会員総数 四、六二七名

出席会員数 二七三名

委任状 一、四六三名

司会者 久保田常任理事

以上により本総会成立の旨宣言

総会次第

- 一、開会の辞 川那部副会長
- 二、会長あいさつ 三神会長
- 三、物故者への黙禱
- 四、議事録署名人選出
- 五、議長選出 上田常任理事
- 六、会務報告
- 七、国際女医学会について 佐野国際女医学会連絡書記
- 八、議事
 - (1)昭和四十八年度決算報告 福永常任理事
 - (2)財産目録年金額益計算報告 添田 監事
 - (3)監査報告 福永常任理事
 - (4)当期剰余金処分案 柳瀬常任理事
 - (5)昭和四十九年度事業計画案 柳瀬常任理事
 - (6)昭和四十九年度収支予算案 守安常任理事
 - (7)国際女医学会東京大会について

山崎副会長

三神会長

九、吉岡弥生賞授与式

十、国際女医学会会議提出講演

(1)眼科領域における公害 小暮美津子

(2)公害によってひきおこされたアレルギー性疾患の治療 添田百枝

(3)水俣病についての報告 山崎倫子

十一、閉会の辞 小俣副会長

川那部副会長

一、開会の辞 川那部副会長 出席会員をねぎらい、開催地石川県の支部会員に感謝の意を表される。女医の歴史を振り返り女医第一号荻野吟子女史が八十九年前、吉岡弥生先生御夫妻による、日本女医学学校創設が七十四年前、第一回日本女医学会総会が六十年前である。本会が意義多い総会となる様念願する旨の御挨拶あり。

う事になった。国際女医学会東京会議の開催についての会長の使命は重大であると考え、皆さんによって選ばれた役員方は皆力のある人達である。即ち三人の副会長、理事(庶務・会計・事業・渉外・編集担当)とおのおの適材を得て成果をあげている。会員各位の御援助をお願い申し上げる。本会が社会から重く認められている証拠として叙勲者(山本・龍・阿部・福永の諸先生)を出し、その他、海洋博の医療への援助を要請された事等があげられる。本日は議題について審議して頂くのであるが、第十四回国際女医学会会議が今秋ブラジルで開催され、山崎、小暮、添田の各先生からの提出講演があり、日本からの参加者百名。更に二年後の東京会議の準備は現在の日本女医学会の最大関心事といっても過言ではない。小異を捨てて大同につくという大らかな気持ちを持って一致団結してこの会議を成功させて頂きたい。なお今回の吉岡弥生賞は石橋志う先生、堀口文先生のお二方が受けられる。今後も該当者を推せんして頂きたい。時間の制限があるのでこれを以て挨拶とする。三、物故者への黙禱



今 きぬ、中山 義子、三上 とき 小池 ヴィクトリア、 蛭田 満 豊岡 寛子、高橋 あや、桜木 つま 杉浦 よね、川島 ウメ、浅利 てつ 伊藤三枝子、斉藤 トク、松浦 淑子 越智シゲル、加藤 ふみ、谷川 光枝 佐藤 タミ、石原 九重、小川 朝子

- 四、議事録署名人選出 「会長一任」の声あり(全員賛成) 会長に指名願う。 中村西子氏、唐沢 寿氏。
- 五、議長選出 「司会者一任」の声あり(全員賛成) 議長 松岡宏子氏。
- 六、会務報告(四十八年度) 上田常任理事
- 七、国際女医学会報告 佐野国際連絡書記

日—十八日ブラジルで開催。議題は「人体に及ぼす遺伝及び環境因子。」日本からは三題講演が提出されている。参加人員百名。第二回打合わせ会は金沢で懇親会のあと引き続き行なう。加えて国際交流、ブラジル会議の旅行コースの説明及び国際女医学会費その他の説明あり。

- 八、議事
 - (1)昭和四十八年度決算報告 福永常任理事 収入の部で会費予算八百五十万円に對して決算は八百九十万円、予算より四十万円の増額となった。これは数年来ないことである。またルーペンダントは売れ行きがよく前年度に比し約三十万円の増収等の報告あり (全員承認)
 - (2)財産目録年金額益計算報告 福永常任理事 「異議なし」の声あり(全員賛成) 年金額益計算報告及び国際女医学会ファンDについて (全員承認)
 - (3)監査報告 添田 監事
 - (4)当期剰余金処分案 福永常任理事 (全員賛成)
 - (5)昭和四十九年度事業報告 柳瀬常任理事
 - a 奨学事業 イ吉岡弥生賞 社会に貢献した人 石橋 志う氏 医学に貢献した人 堀口 文氏
 - b 助成事業

イへき地診療への助成
ロ公衆衛生、社会福祉への助成
ハ支部助成
ニ協力事業

イ講演研修会：総会後、第十四
回国際女医学会会議提出講演大
要発表
ロ公害調査

ハ国際交流：本年十月十三日、
十八日リオデジャネイロで第
十四回、一九七六年東京で第
十五回国際女医学会会議開催予
定

ニ機関紙(年四回)

ホその他：

○ルーベンダン(昨年より売上
げ伸び財政を潤す)
○年金事業(新たな構想をもっ
て拡充をはかる)(全員賛同)

(6)昭和四十九年度収支予算案
守安常任理事

○質疑応答

長谷川(佐賀) 支部助成が三十万
円であるが機関紙の方に繰入れて内容
を充実出来ないか。

守安理事 支部助成費を計上して三
年目になります各支部でも通信費そ
の他に役に立っているのもう少しこ
のまま続けたい。機関紙のことにつ
いては理事会で検討し編集担当理事とも
相談して決めたい。

(7)国際女医学会会議について

山崎 副会長

常任理事会、理事会、国際女医学会
議を成功させる会で検討し了承され、
昭和五十一年八月二十二日から八月二

十八日まで、帝国ホテルで開催と決定
二十二日(日)登録、月曜日から四日
間学術会議、病院見学、ワークショッ
プなど五日目は小旅行を計画、開催し
たい。テーマは「癌を含む、ウィルス
による疾患」これに時代に即したテー
マ(リオデジャネイロの会議で追加さ
れるかもしれない。理事及び中村西子
先生を加え組織委員会を作り役員分担
を決めてある。六百人位の参加をみこ
み、予算は現在の五千万に二年後の物
価上昇を考慮し六千五百万円を集めた
い。登録費二千五百万、大口寄付二千
五百万、会員よりの寄付二千万位、募
金委員会を中心に大蔵省へ免税措置申
請書類を出すところまで来た。その他
細かいプログラムに対する会員の皆様
の御意見をいただきたい。

○質疑応答

及川(世田谷) 先日出した国際女
医学会会議に関する意見の原稿訂正は遺
憾である。どうしても夏開催をしたい
理由は何か、アメリカばかりが会員で
はない、外国人がきてても日本人が参加
しなければしょうがない、経費も会員
一人が二万円出せば九千二百万円、二
万円位誰でも出す。会場、バスにク
ーラーがあっても見学場所は暑い、秋よ
り夏の方が安くあがる数字を示してほ
しい、会員のアンケートをとって決定
すべきである、パリでも一人百万円を
使っているのから計算すると百人が出
せば一億になる等。

山崎副会長 理事会が夏がよいとし
たのは、あくまで外国の方が見えるの
に都合がよいから、八月の会期も立秋

を過ぎお盆のあととした、皆さんの御
意見もいろいろ伺った、国際女医学会は
あくまで国際女医学会本部が主催する。
小野国際女医学会次期会長 ウィーン
の本部とモラーニ会長にまた問合わせ
たところ、外国の女医さんは女中を使
っていないので夏休みの方が子供の世
話を頼みやすいようである、皆が出や
すい時期で八月に賛成した、アメリカ、
欧州では九〇%がフルタイムに働いて
いる、リオが十月開催となったのは航
空運賃が安くなるからである。

小出(高知) 日本の会員が夏は
やだと言ったら外国の会員だけでやる
ことになるような気がする。

橋本(大阪) 日本女医学会の事業の
やり方は上から流れて、責任は下がも
つ形である。今の時点では自信をもっ
て引き上げられない。

山崎副会長 いろいろ御意見ありが
たい、リオには第一報の予告をもって
いかなければならないので御協力をお
願ひしたい。

小出(高知) 協力しないわけでは
ない、総会で決定を。

三神会長 プランは誰かが立てなけ
ればならない、日本開催となったこと
は国際女医学会で信頼されたことである
から応えなければならぬ、時期は投
票で決めたい。

小川(都下) 日の変更はまだ可能
なのか。

及川(世田谷) 協力しないのでは
なく、決め方が一方的だといっているので
ある。

山本(都下) 総会が決定の場であ

る。
北川(世田谷) どの位の外国人が
日本の夏を知っているのか。

上田(墨田) 世界中が夏休みは同
じで八月が都合よからう、本部にも報
告済みなら皆で協力するのがよい。
富永(広島) 皆にもっと相談すべ
きであったと思うが、執行部が八月開
催に強い信念があるなら一致協力した
らどうか。

などの意見が出された。
開催時期の適否、変更可能性の有無
その他について前記のような熱心な発
言あり討議の結果、結局投票により決
する事になり、投票による採決を行な
った。

開票結果
理事会・評議員会案に決定
賛成 百四十票
不賛成 九十一票
無効 二票

(8)次期総会開催地について
会長より山梨県決定の説明
清水山梨県支部長挨拶
受賞者 石橋 志う氏
堀口 文氏

十、国際女医学会会議提出予定演題の講
演

(1)眼科領域における公害
——日本における有機燐殺虫剤に
よる症状—— 小暮美津子

(2)公害によってひきおこされたアレ
ルギー性疾患の治療 添田 百枝
演者が発見したアレルギー性疾患
新治療薬MSアンチゲンの効果に

ついて、次の諸症例—アレルギー
性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患、気
管支喘息、関節リウマチ、薬疹(抗
生物質、ピリン、原因不明)—に対
する効果を数字をあげて説明。
(3)水俣病についての報告
山崎 倫子
有機水銀中毒症である水俣病の実
態調査の詳細にわたって報告。
十一、閉会の辞 小俣副会長

石川県の会員の御好意により山紫
水明の地金沢で総会を開催された事
に謝意を表す。熱心な討議の結果
いよいよ国際女医学会東京会議の開催
日もきまった。各位の御協力を感謝
申し上げてこの総会を閉じるとい
う旨の御挨拶あり閉会。

日本女医学会評議員会
日時 昭和四十九年五月十八日(土)
午前十一時三十五分
場所 石川県金沢市下本多町
観光会館

司会 久保田常任理事
評議員数一二名、出席者四十
三名、委任状五十通で定款によ
り評議員会成立。

一、会長挨拶 三神 会長
一、議長選出 司会者に一任
一、昭和四十八年度会務報告
静岡の仁瓶孔子氏に決定
上田常任理事

庶務報告 別紙の通り
事業報告 別紙の通り
一、議事

一、議事

一、議事

(一)四十八年度決算報告

福永常任理事

(二)財産目録、年金損益計算書

福永常任理事

(三)剰余金処分案について

福永常任理事

当期剰余金二百二十一万一千六百三十二円のうち、五十万円を国際女医学会ファンドにし、残額を四十九年度予算に繰入れること。
監事監査報告 添田 監事
相違ないことを証明。

(四)昭和四十九年度事業計画案

柳瀬常任理事

(五)昭和四十九年度収支予算案

守安常任理事

内国際会議について 山崎 副会長
第十五回国際女医学会を東京で開くことがパリで決定し、二年間検討してきたことは日本女医学会誌第五十八号に詳細が掲載されているとおりで、女医学会執行部としては昭和五十一年八月二十二日から八月二十八日までと決定。会議のテーマは「ウイルスによる疾患」に、マは「ウイルスによる疾患」に、リオで、時代に即応したテーマが加えられるであらう。会議は、英語・日本語の同時通訳つき、予算五千万円ぐらいに諸物価高騰を考慮し、六千五百万円の案、等の説明。
(六)次期総会開催地について

三 神 会 長

山梨県で引き受けられたむね説明。
以上議事(一)〜(七) 承認



吉岡弥生賞を受賞して

神奈川県支部

石 橋 志 久

今回日本女医学会第十九回総会にあたり表彰していただき誠に感謝に堪えません。
総会当日はよるこんで出席いたす予定でありましたが、現在自分の研究である乳児院の全国研修会と重なり出席できず、従って皆様にお目にかかってお礼も申し上げられず誠に残念でございました。ここに筆を取りお礼を申し上げる次第でございます。

私も皆様と同じように医に籍をおき終戦時には続けてその道に研究もし進んで行くつもりでございました。幸にも私はあの戦争中火災からものがれ、子供達も出征はしましたが皆無事に私の元に帰って来ました。一方、皆様も御承知のように周囲を見れば家は焼かれ未だ幼ない児を抱え、食うに食なく働く事もできない多くの婦人達がおり、何とかしてやらなければすまない思いで立ち上ったのです。

横浜では(どこも同様でしたが)敗戦と同時に米軍の上陸進駐と共に……若い女子のチョコレートへのむらがる様が苦しく見ておられず、同志と話し合い、その人達のはいる施設を作り次に未亡人及びその子供等のために、子供達は預り母には職を与え……これが成長して神奈川県の子供連結会となり……子供預り所が保育所、乳児院、



吉岡弥生賞を受賞して

慶応大学在職廿二年を顧みる

独協医科大学産婦人科講師

堀 口 文

昭和四十五年には天皇陛下より勲四等瑞宝章、横浜市より文化章、また今回日本女医学会より吉岡弥生賞をいただき全く身にあまり光栄と自然頭の下る思いがいたしました。私としても別に

去る五月十八日、金沢市で開催された日本女医学会総会において、浅学非才の身にも拘らず榮与ある吉岡弥生賞を受賞致しましたことは誠に光栄なことで深く感激致しております。

これも一重に先輩諸先生方の暖かいお励ましの賜と感謝致しております。受賞の対象となりました血液型不適合妊娠に関する研究は慶応義塾大学医学部産婦人科教室において為されたものでございますが、さきに学びました同大学法医学教室において得ました免疫学の知識を基礎にして新生児溶血性疾患による重症黄疸や核黄疸による脳性麻痺及び新生児死亡等の予防に尽くし

大した事をしたのでもなくただ初めの思いがこもってきたのみです。
殊に受賞に沢山のお金をいただきましたのみならずあの橋を一目見ました時はおなつかしい吉岡弥生先生のお顔を拝見して感慨無量、昔が思い出され涙がこぼれ一時は無言の時がつづきました。
この橋は大切に子々孫々までも伝えるつもりです。
どうぞ皆様お体をおいとってくださいまして、医界のため充分おつくしくくださいませ。

て参りました。私の研究が僅かながらでもお役に立つことが出来たとすれば望外の喜びでございます。
顧みますれば昭和26年東京女子医専を卒業後、慶応義塾大学法医学教室の助手として五年間、法医解剖を初め血液型学、病理学、生化学及び裁判化学等を応用した研究に携わりました。当時ここには東京女子医大の平瀬文子先生が在職中で色々とききアドバイスを戴いたことは幸せでした。主任の故中館久平教授は下山事件の自殺説で脚光を浴びた方ですが私が入室しました時、血液型の判定は百例に一例であつても絶対に間違えてはならない。そのため

に無実の人を犯人にしてしまうことがあるととされました。法医学では屍体から採取した古い血液や、衣服に附着した血痕、精液或は又唾液などから血液型を判定しますから、臨床家が通常行います血液型判定よりずっとむづかしかつたのですが、この時学んだ血液型に対する知識や技術が産婦人科で臨床研究を行う際役立って総て自信のあるデータを作る事が出来ました。
産婦人科に転向した頃、当時欧米においてRh因子が新生児重症黄疸や胎児死亡あるいは流早死産の原因となる機序が明らかにされA B O不適合もこれと同じで交換輸血などの治療も研究されて参りました。当時不妊症の研究をしておりましたが、流産が免疫と関連あるかどうかを検討するため不適合の問題をとり上げ、特に新生児黄疸の予知に關しても充分研究出来るよう坂倉哲夫元教授、故安藤画一名教授を初め教室が一体となって患者のフォローアップに協力してくれました。勿論輸血センターや法医学教室の各位の御援助もあり研究体制は充分でした。

そのため私がこの問題を管理するようになつてから一例も脳性麻痺や核黄疸による新生児死亡が見られなくなりました。
その後ドイツ留学のため一時中断、管理は私がいなくても出来るようにし、帰国後は又不妊症や内分泌の研究のかたわら、又不適合妊娠の研究発表や後進の指導にあつております。
本年四月から独協医科大学に赴任致しましたが永かつた慶応大学の助手生

活の終りに日本女医会、吉岡弥生賞を受賞し、飯塚理八教授をはじめ関係諸先生方が非常に喜んで下さり感無量でございます。今後は新しい職場におきましてもこの喜びを心の糧として三神美和会長先生をはじめ会員の先生方の御厚志を無にしないよう診療に、研究に又医学教育に励んで参りたいと存じます。どうぞ今後共宜しく御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます、受賞の御挨拶と致します。

総会に出席して

広島 富永 睦子

このたび金沢での日本女医会第十九回総会に出席いたしました。地元のみなさまのお心のこもったおもてなしに、まず、敬意と感謝を表したいと存じます。

多人数を迎える側としては、周到な計画をたて、こまかいことに心を配りながら、足並のみだれないようにしなれば会合を重ね、総会に備えて何ヶ月間を一筋に事を運ばれてきたことでしょう。それぞれの体が体重減少しスマートになられたとか、さぞ神経もすりへらされたことでしょう。おかげさまで私たちは、暖かいご接待にあい、充ち足りて帰宅いたしました。

厚くお礼を申し上げます。さて、私は最後におまじりをした妙成寺の門を出ながら、ふとおみくじを

ひいてみようという気になり、ひきかえしておみくじを手にしました。凶とありました。書かれている内容は「吉」とかわるものではないのですが、それでも私は傍の低い木に紙を結んだのでした。何故、凶とでたのだろうか。総会で臆面もなく発言し、今またここに書けもしない筆を走らせることに関連しているのかな、などと反省しています。

ともあれ、一九七六年国際女医会を日本でひき受けようという時点では、執行部としては、それ相当に心に期することがあってのことであつたらうと想像いたしましたし、又これに対し、開催時期についての論議がありました。これも当然のことと理解出来ます。会議をすすめてゆく上に、今時、問答無用などという態度をしめしてはいけません。会員の意見を十分に聞き、討議を重ねることは必要であり、これを如何にまとめ、如何に会員の協力が得られるような状態にもってゆくかが問題でした。

二年さきの大きな会を控えて、今日またためらうばかりでは、すまされません。今は決断のときです。もう時間はないと申したいのです。ここらあたりで、会員が一致団結して、計画を実行にうつし、国際女医会に備えなければ、風土も習慣も言葉もちがう全世界から、はるばるのおみえになる女医先生がたに満足していただけないのではなにか等、私の相愛に過ぎないことであるかもしれないが発言させていただけでした。

諸先輩に対して、失礼な言があったかも知りませんが、ご寛容下さい。ご出席のみなさまは私のつたない言葉に対して、良識をもってご判断いただきまして厚くお礼を申し上げます。日本女医会会員のみなさま、来るべき国際女医会日本開催を成功させるために、どうぞ会長をはじめ、理事、監事、評議員その他の役員の方々のご苦勞を察し、いたわり、激励し、これにご協力かたをお願いいたしたいと存じます。

第19回日本女医会総会 懇親会の記

石川県支部 伊藤 冬子

珍らしい程の五月晴れ、葉間から漏れる日ざしが、きらきらと真夏を思わせ、懇親会場の白雲楼ホテルは染まりそうに鮮やかな緑につつまれて私達の到着をまつかの様でございました。

総会会場と懇親会場がはなれていたため随分と御不便な思いをされた事と思いますが、途中六つの美を兼ねそなえていると称賛された兼六園を駆けあしながらみて頂きよかったです。お喜びです。時間の都合で充分そのよさを味わって頂けなかった事が非常に残念でございました。

定刻をややおくれて開かれた懇親会はホテルが誇る大広間で催されましたがさしもの広間もその隅々まで華やか

な会員でうずめつくされ来賓として御着席の県知事、市長代理、県医師会長も正に日本女医会の力強さをまのあたりにみて、目をみはる思いをされた事と思われました。

会は地方色を豊かにとの配慮から、お抹茶の接待に始まり、能楽界の面々の舞囃子、狂言「棒しばり」など御観賞頂き支部会員やその子弟のお琴や舞踊を加えて楽しい一時を過ぎて頂きました。又当夜はホテルの一室でひらかれた加賀友禅の粋をつれづれにみて頂く方、お互に旧交をあたためられる方、山深い静かな宿で各自楽しい一夜を過ごされた事と思います。

ただ数少ない会員で不馴れな事もあり、宿泊その他、色々不届きな点がございました事をお詫び申しあげます。

リード女史逝去

大原 一枝



リードさんが亡くなった。航空郵便の裏面にアダム・E・リードという彼女の令弟の名を見たとき、あるいはという胸さわぎを覚えたのであるが、悲しいことにそれは的中していた。

一九七四年五月二日、米國コネチカット州のノーウィッチにおいてその生涯をとりられた由である。将に「巨星地に墜つ」の感慨にたえない。
ADA CHREE REID, M. D. 一九二五年コーネル大医学部卒、母校の内科学講師、ニューヨークインフアーマリ（エリザベス・ブラックウェル財団設立）心臓科医長、メトロポリタン生命保険会社胸部疾患部長を歴任後、アメリカ医師会の国際活動部門の専門図書交換に関する「医師から医師へ」のプログラム主任、国連の国際健康問題のスピーカー等、幅広い活動をしたが、近年健康がすぐれず、コネチカット州ナイアンティックへ引退療養しておられた。

一九五〇年には国際女医会次期会長となり世界各国を数度にわたって遊説行脚、女医会の結成と国際女医会への加入を呼びかけ、わが国にも二度来日、国際女医会の今日の隆盛は彼女の功績に負うところが多いのであるが、日本女医会にとっても恩人の一人かも知れない。

彼女を知る人は今は少ないが、龍知恵子、川那部喜美子、小野春生、山崎倫子、橋本恵美子諸先生方が比較的よく接触されたように思う。先生方と共に偉大であった彼女の生涯を偲びたい。私事を語る事が許されるならば、私にとっては後半生の大恩人であるのだ。わが日本女医会が国際女医会に未加入の一九五六年に、スイスでひらかれた国際女医会に私が出席したのは彼女の勧誘によるもので、その後約十日

間にわたるアメリカ女医会員のヨーロッパ旅行に飛入り参加して、当時未だ一行中の若手であった現国際女

医会長のモラーニ女史との御縁がひらけたのもこの旅行であった。どっしりした体格、悠揚迫らぬ態度、文字通りアメリカ女医会の重鎮であったリードさん、いつまでも元気で余生をとの願

いも空しく、今は天国に召された。私の二度にわたる世界一周旅行の都度のニューヨークでの彼女のアパート滞在の日々、ハドソン河を見下す台所の窓際にうづくまっていた愛猫のハッピー、静かなお人柄の弟さんのアダム、糖尿病の彼女の拵えてくれたダイエツト(砂糖なし、人工甘味料入り)のゼリーなど、慈母のような彼女の温容と共に、なつかしい懐い出となった。

(一九七四、六、一〇記)

能登観光 Aコース

石川県支部 久田玲子

五月には珍らしい汗ばむような陽気と快晴に恵まれて、午前九時、車は湯涌温泉、江戸村を出発しました。今日は昭和四十九年五月十九日、昨日金沢市観光会館で開かれた第十九回日本女医学会定時総会に御出席いただきました諸先生方を、私達石川の誇る観光地能登半島の入口まで御案内しようと、名鉄観光、北陸交通の方々のお世話で日帰りのAコース二台、能登一泊のBコ

ース四台、計六台そろって快調に出発いたしました。私はAコース二号車にのりこみました。

さて車は金沢市内では金沢大学病院前、兼六公園下、橋場町、鳴和、森本とすぎ、津幡から国道19号線に入りまじた。この辺りまで国鉄北陸線と並んでいきましたが、津幡からは国鉄七尾線は単線となりこれと並行して道は続いていきます。河北潟を迂廻するとまもなく左手に日本海に面して内灘の砂丘がみえてきました。かつて基地反対闘争の拠点として知られたところですが、長く続く白い砂丘の左端、車の左後方に、白亜の殿堂・創立三年を迎えた私立金沢医科大学が小さくみえています。

宇ノ気近辺からは海に近く砂丘の続きにうつります。一層海よりに能登海浜道路がありますが、今日は昔ながらの国道を行くと、まわりにはぶどう、もも、西瓜畑がひろがり、タバコの栽培も盛んでなかでもぶどうはそのほじめ甲州からとりよせたものであり大変美味だということ。緑の草原の続く放牧場のある押水近くになると、右手になだらかな宝達山がありますが、かすみかくもか、その全景はさだかではありませんでした。

加賀と能登との国境、前田川をこえ今浜の近くで海に出て、いよいよ千里浜、なぎさドライブウェイに入りました。五月の陽光に輝く波面、えんえん続く白い砂浜、遠浅でハマグリなども多いといわれ、夏を待ちかねた子供達が下着のまま水の中に入っている姿が処々にみうけられます。貝をとって

るのかしら、あら！泳いでいるんだわ！さすがに寒い、胴ぶるいがとまらなくしてそんな幼い子等もみえました。この前きたとき千鳥が沢山いたのに！今日はいないのね。遠方のおくにの先生のそんなお声もありました。ハマグリをやいた屋台がならびーなぎさは続くー全長八キロということでは皆様びっくりです。



49. 5. 19 にて 門 殿

彼方なる能登の岬は
こゑありて波のはたてに
日もすがら呼ばへることし
彼方なる能登の岬は
三好 達治

昨日までのお疲れを皆様、ふっとばして下されば——と念じつつ車は羽咋に入りました。

之乎路から直越えれば羽咋の海朝風したり船楫もがも 大 伴 家 持

この辺で縁結びの神様、気多大社のお話を聞きました。能登一ノ宮にあり祭神は大己貴命。加賀一ノ宮の白山比咩神社とともに石川県最高の社格をもつといわれます。柴垣海岸の長手島、海中の奇岩を左にみて、北陸における日蓮宗の総本山、七堂伽藍をそなえて北陸随一を誇る妙成寺へつきました。五重塔は元和四年建造、その姿の美しさ、まれにみる名塔といわれ室町風の装飾をそなえ高さ五四米、建築の素晴らしさもさることながら、説明に出られた若い僧侶の方の名調子、卓越した弁舌がなみいる者を思わず遠く三五〇年のいにしえにさそいこみ、由緒あるこのお寺に一層の精彩をそえてくれました。

妙成寺をでて高浜、原子力発電所が予定されている赤住、浦福と海ぞいを走り、外浦の名勝の一つ能登金剛へ到着しました。能登の海岸は屹立した茶褐色の集塊岩の断崖で、大きな岩が海中に突き出し小舟が通るほどの洞窟を作っています。紺碧の海、そそりたつ岸石、南の海を思わせる澄んだ水、海藻も豊富で先生方は遊覧船にのりこまれました。

能登で昼食、記念撮影をして午後二時、帰途につきました。タバコの産地三明、直海、米町と、あすなるの木の続く道、国道29号線を棒の花と能登の女性、加賀の千代女と殿様の話などをききながら往路の19号線へ羽咋近くで

マロニエ会 ヨーロッパの旅 (一)

川崎市 稲生 襄

この国には薬店が多いとか、そして夜中でもどこか必ず一個所お店が開いていると聞き、さすがお薬の国だと驚きました。ヨーロッパ旅行三回目のお出づる子さんはいつの間にか安い「サリドン錠」や便利に包装された消毒薬のセット、ゾーリンゲンの錠などを求めて得意そう。早く教えてもらえばよかったと残念がっても後の祭。この国ではリンゴなどに袋をかぶせて大きくしないで、自然のままの大きさとか、またエンドウその他同じものを毎日食べても料理法をかえて合理的にやっている様子。

また、ヨーロッパは日本のように台風などの気候の変化が少ないので、一年のプランが完全にまもられ予定がたてやすいときいて羨ましく思う。ここでの有名な料理は「フォンデュ」です。ホテルから離れて高台の見張らしの良いレストランの二階で生の

音楽で楽しく踊る各国の人々を眺めながら、フォンデュでの食事は最高でした。これは卓上のフォンデュパンにて肉や野菜を長いフォークに刺して揚げ、いろいろのソースで頂くのです。ワインにとても合い美味しかったです。

◎イタリア

社会保障ができすぎていて老人に働かざるを得ないと感じました。イタリアの名物ピザパイやスパゲッティ料理は余り美味しいものとは思わなかった。

◎オランダ・アメリカ

なお、一寸踏み入れたオランダについては夏季四週間程病院見学をした学生さんから聞いたのですが、オランダの開業医は看板などなく、知らなければこれが病院ということは全然わからないそうだ。病院にはティータムが、午前十時頃と午後三時頃にあり、午前はコーヒー、午後は紅茶で無料でいくらでもお代りができ、時にはサンドウィッチやクッキーもつく事がある由、誠に羨ましいかぎりである。

アメリカに三年間滞在した患者さんのお話によると、登録制になっており、ホームドクターが予防接種のことも、また他科への必要ある場合もその家庭に似合った病院を紹介してくれ、軽快したら、また引受けて治療をつづけてくれるようになっており、病院とホームドクターがとても緊密ですと申しあげた。治療費は一時立替えて全部支払うが七分通り会社から戻り、重症で入院などの時は全額戻るとのことだ。医薬分業になっており、抗生物質その他、医

師の処方箋なしには何も買えないとの事。

◎独、英、仏とも医師は不足している。「独」は病院に残るより開業する医師の方が多い。

「英」は国営医療開業に一定の制限があるため海外に流出するものが多い。

△筆者後記▽

(一) 前号イギリスの医療制度の項に次の事項を追加します。

① イギリスの医療制度は保険によるのではなく、処方箋その他わずかな患者負担を除いては、全額国庫負担により全国民一律の保健サービスであること。

② 医薬分業であること。

③ 医師の報酬支払方式が診療と結びついた点数単価方式でないこと。

医師の報酬は専門委員会が決定することになっているが、一種の俸給の形をとっている。その社会的地位や他の自由専門職の収入を参考として、割合高いところに定められている。

開業医の場合、報酬の基礎となるのは登録された受持人口数(日本の米の配給登録に似ている)であるので、過当競争のため開業医の収入が減るのを防ぐことと、医師を全国的に配置することを目的として、人口対開業医数が一定比率に達した地域には新規開業医を許可しない方針がとられている。

イギリスにおいては日本のように医師になるための教育において、国公立医科大学または医学部と私立の医科大学又は医学部との間に、学生の負担額に極端な開きがないのではないかと思

う。奨学金制度があり能力さえあれば医師になり易いようだ。

以上は東大経済学部卒にて社会保障を研究しておられるウラジオストック生れの久保まち子先生のご研究を借用させていただきます。

(二) 欧米の医療事情について興味のある方は川崎市小児科医会々誌三号にのりました土屋義貞先生(健保総合川崎中央病院)の欧米医学視察旅行記並びに東京女子医大小児科学教室同門会誌第三号、森 文子先生の『共産圏の児童福祉』をご参照下さい。

(三) 前号七ページ二段目左から五行目のグイヤベースをピフテキと書いたのは誤りで、これは南フランスのマルセイユ地方の名物料理で季節の魚を使ったなべ料理です。

モラーニ博士のこと(一)

大原 一枝

は、米国各地の沢山の女医たちの友人を得たことであった。そのおかげで、あとの米国旅行中、各地の女医たちから思いもかけぬ知遇をうけることになったのであるが、その時のグループの一人に彼女がいた訳である。

当時のアメリカ女医団の中では、年令からいっても彼女は若い方で、大物というよりむしろ中堅的存在で、中肉中背、美しい大きな瞳と、形のいいギリシャ鼻をもったかなりの美人で、ライン河畔のバスの車中では、ローレライの歌のコーラスのおんどを取ったりした、活潑で茶目っ気たっぷりな人という印象であった。前記のリード博士や、シカゴのライト博士ら当時の米国女医会の大物から、Dr. Beat Bell と評価され囑望されていて、今日、国際女医会長の椅子を占める片鱗は当時からうかがわれた。

ケルンで米国女医団と別れた私は、数週間のヨーロッパひとり旅(主としてドイツ各大学訪問)ののち、米国へ渡り、ニューヨークでリード博士のアパートでの二週間の滞在ののち、フィラデルフィアに飛び、ペンシルヴェニア女子医大滞在中、モラーニ博士のご自慢の新築の木造の家(木造の家は最上のぜいたくのこと)に招待をうけた。人間味豊かな彼女ならではの歓迎会(自然美豊かな庭での炭火焼きのピ

ADA CHREE REID, M. D. に紹介された時にはじまる。会議終了後のアメリカ女医団の欧州バス旅行に彼女たちの好意で飛入りした私は、おかげでデラックスな欧州旅行を経験することができたが、何よりも幸せだったこと

は、米国各地の沢山の女医たちの友人を得たことであった。そのおかげで、あとの米国旅行中、各地の女医たちから思いもかけぬ知遇をうけることになったのであるが、その時のグループの一人に彼女がいた訳である。

以来、モラーニ博士との出会いに、彼女の一九六二年ニューデリーでひらかれた世界医師会へアメリカ女医会代表として出席した帰途来日の際の関西医大訪問に次いで、一九六四年度の再来日、私の一九六七年のミュンヘンでの国際皮膚科学会出席後のアメリカ旅行での彼女の新しいアパートでの再滞在、一九七〇年彼女の万博見物かたがたの来日、一九六九年メルボルの国際女医会での再会等々、十八年間に六回というように、外国人の友人中では、もっとも屢々出会って旧交を温めあつた人といえることができるであらう。

その彼女が、年来の国際女医会に対する貢献がみとめられ、パリ大会でいよいよ会長に就任して、今秋リオ・デ・ジャネイロ大会に臨むことになった。小野泰生次期会長や佐野アヤ子国際書記との間に公的には頻繁な連絡のあることであるが、私的なおつきあい相手である私として、この際、彼女の横顔を、一九六七年秋のアパート滞在時の日記を中心に御紹介してみたいと思

(以下次号)



理事会議事録

日時 昭和四十九年三月二十三日

午後二時〜四時三十分

場所 至誠会館四階会議室

出席者(敬称略)

三神、小侯、川那部、山崎、上田、大原、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、石田、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、竹内、中西、野中、藤井、森、森川、山口、山本、八木、佐藤イ、添田、戸田、欠席者(敬称略) 小野、白橋、長池、福島、真鍋、湯本

1 庶務報告 上田常任理事

2 会計報告 福永常任理事

3 議事 一、昭和四十九年度収支予算案について(別紙の通り) 守安常任理事

二、昭和四十九年度収支決算推定額(別紙の通り) 守安常任理事

三、昭和四十九年度収支報告(別紙の通り) 守安常任理事

四、昭和四十九年度収支報告(別紙の通り) 守安常任理事

○当期剰余金について

会長：当期剰余金一、三九二、五六八円はあくまで推定額であって三月末日にならなければ正確な数字ではない。

会長：国際女医学会会員数は本部は五十名位増とし千四百名位にしては如何(案は千五百名になってい

る) 佐野常任理事：国際女医学会本部への寄付金について発言あり。この件については改めて考える。

○事務員俸給定期昇給について

小川(四等十四号)伊本(六等十号)四宮(六等十号)緒方(六等八号)等級は女子医大の基準による。

中西理事：この等級は女子医大が定期昇給、人事院勧告等を加味したものである。

会長：本年はこの額で支給し、来年度は日本女医学会の給与体制を考える。

以上四十九年度予算案について

二、第十九回定時総会について

総会次第

1 開会の辞 川那部喜美子

2 会長挨拶 三神美和

3 物故者に対する黙禱

4 議事録署名人選出

5 議長選出

6 会務報告 上田 葉

7 議事

⑦次期総会開催地

第一候補地 岡山

⑧国際女医学会について

ブラジル総会について 佐野アヤ子

日本総会に対する今日までの経過について 山崎 倫子

⑨吉岡賞授与式

⑩閉会の辞

三、へき地診療の助成について

東京女子医大無医地区医療へき地診療

右に對し助成金三十万円

川那部副会長

四、年金について

(1)規約の改正

口数の制限をなくする

弔慰金の増額

取扱銀行の指定はしない。

(2)運営

支部に推進委員をおき、本部と連絡を密にして、加入者をふやす。

(3)年金月間をつくり、期間中、拡充に力を入れる。

(4)パンフレットを新しくする。

(5)免税について

年金は免税の対象にはならぬ

守安 素女

理事会議事録

日時 昭和四十九年四月二十日(土)

午後二時〜三時半

場所 至誠会館四階会議室

出席者(敬称略)

三神、小侯、川那部、山崎、上田、大原、久保田、佐野、中川、福永、守安、柳瀬、石田、川島、佐藤千、白橋、竹内、中西、長池、野中、藤井、福島、森川、山口、山本、八木、佐藤イ、添田、戸田、欠席者(敬称略) 丸山、稲葉、熊谷、真鍋、森、湯本

1 庶務報告 上田常任理事

2 会計報告 福永常任理事

3 議事 一、昭和四十九年度収支報告書(別紙) 別紙の通り

二、昭和四十九年度収支報告書(別紙) 別紙の通り

三、昭和四十九年度収支報告書(別紙) 別紙の通り

四、昭和四十九年度収支報告書(別紙) 別紙の通り

際女医学会ファンドに入れ、差額を次期繰越金にしたい。

(4)四十九年度予算案

別紙の通り

一部追加説明

顧問料値上り

(5)佐藤イクヨ監事の監査報告

(6)第十九回定時総会について

総会次第第一三月定例理事会議事録に準ず。ただし議事⑦次期総会開催地について：山梨県支部 内諾

上田・久保田

「お正月ヨーロッパの旅」

募 集 開 始

年末恒例の欧州旅行は例年の旅行に比べ価格内容とも充分自信をもってお勧め出来る素晴らしい企画です。

旅行期間 昭和四十九年十二月二十九日〜一月九日

総経費 二十九万八千円

詳細については、後日ご案内致します。お問合せは日本女医学会本部まで。

ルーベント夏期特別セール

期間 七月一日〜八月三十一日

九月より大幅に値上げされる予定です。

昭和四十九年六月二十日 印刷

昭和四十九年六月二十五日 発行

編集人 大原 一 枝

発行人 日本女医学会

発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19

社団法人 日本女医学会

TEL(31)0968

印刷所 東京都港区白金五、四、一

興栄美術印刷株式会社

題字 吉岡 弥生